



### これは何でしょう



答えについての思い出などもお待ちしています。

- しめきり 6月13日火必着
- あて先 〒783 南園市大浦甲二二〇一 南園市企画課 親子クイズ係
- 賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈
- ◎第27回親子クイズの答えは、こいのぼりでした。
- 第27回当選者発表(敬称略)
- (応募総数27通)
- 福岡美津子 (下末松)
- 門田昌明 (植田)
- 阪林敏恵 (上末松)
- 山田博一 (稲生)
- 安岡敦子 (大浦)

### 思い出がいっぱい

◆うちの家では五月人形を出すから、こいのぼりはありません。でも学校へ行く途中にたくさんあるので、見ながら行っています。学校の教室にも、色画用紙で作ったこいのぼりが泳いでいます。(緑ヶ丘 十居香葉書道さん)

◆わが家は、今女の子二人、今度は、こいのぼりが、あがるかどうか・お姉さんは期待しています。(大浦田 安岡敦子さん)

◆うちの子は、近所のさとし君と仲良しなのですが、こいのぼりがあがっている日は、「こわいき一人でさとし君とこころへよういかん。いっしょに行つて」といいます。(久礼田 野口修孝さん)

◆私には兄がおり、もちろんこいのぼりもありましたが、なぜか赤いこいのぼりだけでした。それもものすごくお好きなんです。どうして一匹だけだったのか今でも不思議です。(回豊野 宮地なぎささん)

◆戦中中、こいのぼりは紙でできていたので、急に雨が降った時には、ぬれて破れて困りました。(立田 山本美智子さん)



## みんなの

## 広場



皆さんはジュニア・リーダーを知っていますか。子ども会の子供たちを助ける、中・高校生のお兄さん、お姉さんのことです。そんなジュニア・リーダーのみんなの活動の様子、また大切さを、南園市少年育成センターで指導にあたっている山口先生が紹介します。

### 頑張るジュニア・リーダー

ジュニア・リーダー(以下J・L)とは、子ども会の育成者と子どもたちの架け橋となり、お兄さんお姉さん役として、実際に子どもたちの活動を指導していく役割です。南園市J・L組織は、歴代のリーダーの努力で飛躍的な発展を遂げ、県下にも名を馳せてきた伝統があり、南園市のボランティア精神あふれる中、高校生



広島県呉市と南園市のJ・L研修会で野外炊飯の様子

で活動を続けています。活動としては南園市内の各地区の子ども会(単位子ども会)の行事「キャンプ、野外炊飯、クリスマスマス会」や南園市連行事に参加し、子どもたちの指導にあたります。また、廣知県のJ・L講習会・中国、四国大会・全国大会などの研修会に参加しJ・Lとしての指導力を高める努力を重ねています。そして、これらの行事に参加するための計画・準備などを行う青少年教室を自分たちで開催するなど、情力的に活動を続けています。

さて、一言に「お兄さん、お姉さん役」と言っても、実際に大勢の小学生の指導にあたることは、思ったほど簡単なことではありません。話し方から、安全への配慮、遊びに関する指導力など、子どもたちと対等な立場に立ちながら、冷静に物事を判断する知識と技術が必要とされてきます。また、その上に旺盛なボ



研修会で キャンプの夜はやっぱりキャンプファイアーで盛り上がります

しかしながら、現在の活動状況は、陸上の一途を辿っているとはお義理にも言えないようです。そうならざるを得ない社会的な理由があまりにも多すぎます。激しくなる進学競争、塾通い、遊ぶ時間もなくなり、遊び場も少なくなり遊べなくなった子供たち、テレビやファミコンなどのカブセル化した余暇活動へののめり込

みなどにより、発足当時の状況から大きく変貌しています。こんな中J・L構成メンバーも減少の一途をたどり、現在二十人足らずで、常時活動人員も十人程度となっています。少ない人数で、夏のシ

ーズンともなればハードスケジュールに追われていますが、何とか先輩たちの活動に負けないよう、これからも伝統を引き継いでいきたいと頑張っています。

ですので一緒に活動しませんか? 詳しいことを知りた

### 野球に ソフトに 宴会に

### お祭り好きの ノーマーク

チーム結成二十周年目を迎え、早起き野球・ソフトボール大会などで活躍する大浦能間地区の「ノーマーク」を紹介します。

### われらサカレ仲間

昭和五十年、ソフトボールクラブとして結成されたノーマーク。長い歴史があるだけにメンバーは、発足当時のからのベテランの方から、入ってま

ちない方までさまざまです。大浦地区でよく行われているソフトボール大会で活躍できるように、また、仲間どうしの交流や親睦、さらには地域の発展にも貢献できるようにとクラブチーム「ノーマーク」が結成されました。

地区名の能間と、弱くて相手にマークされないということをもじって「ノーマーク」の名前を付けたこのチ

ームも、練習を重ねることで強くなり、市内の大会では毎年のように優勝するまでになり、県内の大会へも出場。優勝経験もあって、輝かしい成績を残しています。また、軟式野球が盛んになると、野球にも力を入れ、早起き野球でも活躍しています。

現在、三十四人の大所帯。週二回大浦小学校のグラウンドで練習をするノーマークを率いるのは、学生時代からソフトボールを続ける、面倒見のよい大野祐一さん。その大野さんは「試合の後の親睦会が楽しみでよく続けてくれました。最近では、メンバーの要求も多様化しており、幅広い活動に取り組んでいかなければな



と今後の発展を話してくれました。また、チームは、地区の行事では中心的な役割を果たしており、自警団や稲の共同防除作業へは、多くのメンバーが参加するなど、地区の発展に大きく貢献しています。結成二十周年を迎える今年には、遠征を計画しています。